



# その舟は沈み 行く



ナカノリエ

小舟が水面を揺れている。

遠くに灯りを求めているのか、

温もりを求めているのか。

船頭は舟を漕ぐ手を休め、夜空を見上げている。

ここからは少し遠くてよく見えない。

旅立ちの日、誓ったのは、水面を照らすことではなかったか。

夜の水面に漂う舟は、わずかな焔をいまにも消えそうに抱いている。

月灯りを辿ればよかったのか。

いいや。

夜空の星になればよかったのか。

いいや。

我が身を焼き尽くすことを忘れたのだ。

燃え尽きることもなく、舟は沈み行くのか。

いつか焦がれた日は、もう遠く遠く、思い出せない。

水面に抱かれて船頭は眠る。